

一 三条西実枝↓長岡藤孝

▼元龜三年(一五七二)十二月六日、細川藤孝が三条西実澄に誓状を提出する

① 「古今伝授誓状」 智仁親王写 桂宮家伝来「古今伝授資料」

古今集御伝授之事二条家正嫡流 為御門弟請御説之上者、永如親子不可存疎意候、於義理口伝故実、他言口外之儀、曾以不可在之候、又与他流令混乱、是非之褒貶(貶)禁制之段、如道之法度存其旨候、又将御伝受之後、不蒙免許者聞道説道之義、努々不可有聊爾候、若此条々令違背者、大日本国中神・祖神并天満天神・梵釋四王、殊和歌両神之冥罰、忽某身上二可罷蒙者也、仍誓状如件

元龜三年十二月六日

細川兵部大輔

藤孝

三条殿

参人々御中

▼元龜四年(一五七三)六月六日、里村紹巴、勝龍寺城「天主」での連歌興行を記す

② 「里村紹巴書状」 橋本家文書「紹巴評点・高好付句連歌巻物 奥書」

従一昨日勝龍寺ニ参候て、只今帰宅候、此御巻物到来候砌、発足候キ、於御天主御両吟御興行候、重而懐紙可進候、明日早天二京上候、十四、五日も江州ニ而追々滞留候たるへく候、淵可・貞勝へも此旨御伝達所希候、猶追而可申候、かしく

林鐘六日

(花押)

橋満介殿(橋本等安殿まいる御宿所)

▼天正二年(一五七四)二月〜三月、多聞山城・春日西屋で古今伝授の講釈がある

③ 「天正二年春日祭遂行」 春日大社辰市家記『大日本史料』十編之十

二月廿一日

一 今日於船戸屋祐岩雜談云、自去月(二月)中旬比、三条西殿多聞山

へ御下向、子細者、今度多聞城為留守番替、細川兵部大輔方彼城

二被居之、古今集伝受儀申沙汰云々

三月一日

一 古今伝為御伝授、細川兵部大輔、毎日舟戸屋伺公云々

次頁⑥天正二年六月の「座敷模様」と、⑦その時伝授された「切紙」

▼天正四年(一五七六)十月十二日、三条西実枝が長岡藤孝に伝授の証明状を出す

④ 「古今伝授証明状」 智仁親王写 桂宮家伝来「古今伝授資料」

右吾道之好士藤孝長岡兵部大輔、依感麟角之志・不塊牛毛之才、面受口決等不胎秘説授之訖、抑当流正嫡之説東素暹伝授之時為家卿奥書云証明状号此奥書門弟中第一之由被載之、天下之眉目何事如之、今藤孝所伝亦復如是者乎、雖一句一言堅禁漏脱、深守法度、不可忽之而已

天正丙子小春庚午

二条家一流末弟亞槐(実枝判)

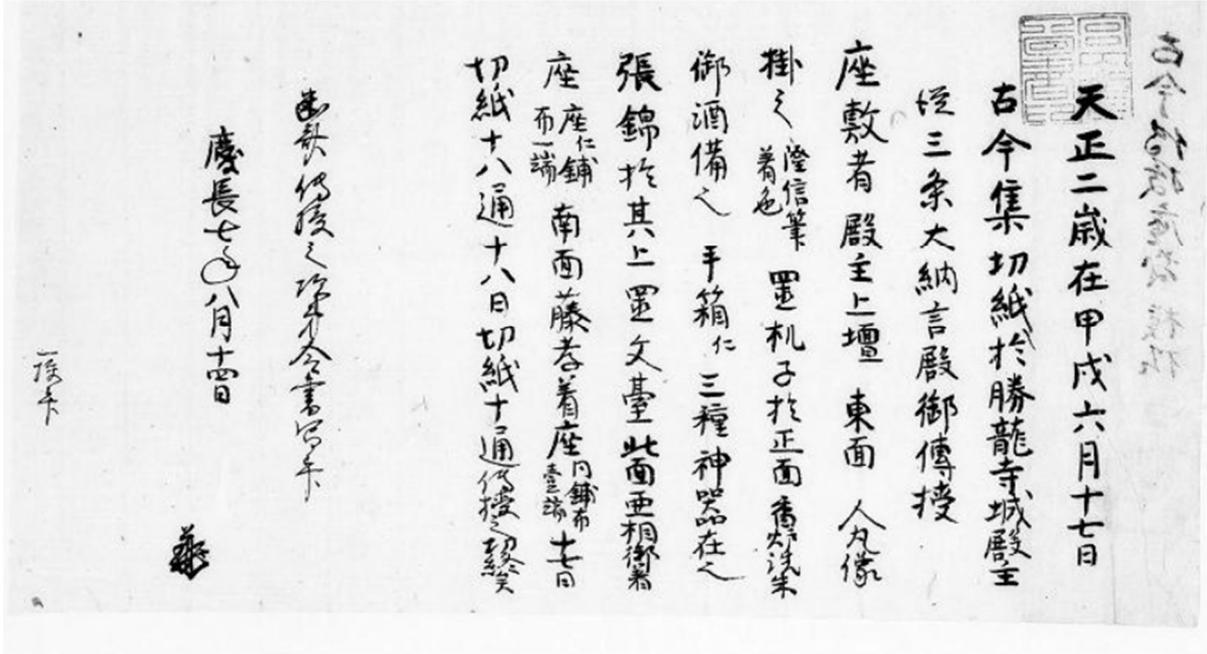
▼天正四年(一五七六)十月二十七日、吉田兼見が古今伝授の不書に伝える

⑤ 『兼見卿記』 天正四年十月二十七日条

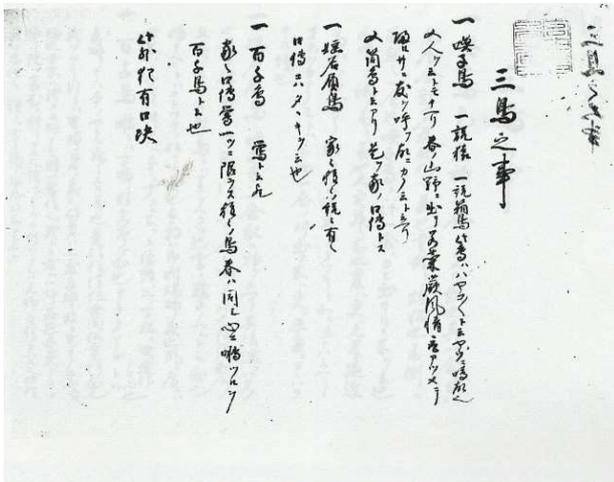
廿七日 (中略)直罷向勝龍寺、(中略)古今伝授之内所々不審在条書、

日本記(日本書紀)神代之卷之内也、注之令持参、今夜依抑留滞留

⑥ ▼天正二年(一五七四)六月十七日・十八日、「勝龍寺城殿主」で切紙伝授  
 「古今伝授座敷模様」 智仁親王写 桂宮家伝来「古今伝授資料」



⑦ ▼三条西実澄(実枝)から伝授された切紙のうち「三鳥之大事」  
 「三鳥大事之事切紙」 (当流切紙二四通のうち) 桂宮家伝来「古今伝授資料」  
 (端裏書) 「三鳥之大事」



三鳥之事  
 一 喚子鳥 一説猿、一説箱鳥、此鳥ハ、ハヤコクト云ヤウニ鳴故也、又人ヲ云トモイヘリ、春ノ山野ニ出テ、若菜、蕨風情取アツメテ帰ル、サニ友ヲ呼フ故ニカク云ト云ヘリ、又筒鳥ト云アリ、是ヲ家ノ口伝トス  
 一 嬌名負鳥 家々ニ種々ノ説々有之、口伝ニハタ、キヲ云也  
 一 百千鳥 鶯ト云歟、家之口伝、鶯一ツニ限ラス、種々ノ鳥、春ハ同シ心ニ轉ツルヲ、百千鳥ト云也  
 此外猶有口伝

【古今和歌集】より(ちくま学芸文庫)  
 よみ人しらす  
 ちもちどり  
 百千鳥さへづる春はものごと  
 あらたまれどもわれぞふりむく  
 をちこのたづきもしらぬ山中に  
 おぼつかなくも呼子鳥かな  
 山田守る秋の飯庵に置く露は  
 稲負鳥の涙なりけり  
 忠岑